

ら準備作業、28日から本格撤去作業が開始された。

当初は鉄骨を切断する工法を取るはずだったが、クレーンにより吊り上げて撤去する方法を選択すると、これが大正解。11月13日、13本目となる最後の鉄柱の撤去が完了。2カ月の予定が2週間と、大幅に短縮されたのだ。

それにしても無償の労働力や重機の提供という決断を下した藤村会長の意図はどこにあるのか。実は大きな理由があった。

「ウチは江戸川区と災害時協力協定を結んでいる。有事に備えて72台ある重機のうち5台を常にストックしていますが、災害時の経験がない。将来のためにも、スタッフに実際の災害現場での経験を積ませる必要を感じていたからです。それとちよほど大きな現場がいくつか終了し、人員を投入できるタイミングであったことも、よかった」

フジムラ側の負担は4200万〜4300万円程度と見られるが、オーナーは

残った鉄柱の撤去もフジムラに依頼したという。すでに練習場の繞行を断念する

TOPIC

行き場を失ったTP単年登録女子プロたちをクラウドファンディングで支援する動き

受験可能年齢が18歳以上から17歳以上に引き下げられ、ツアー出場優先順位を決めるQTに出場するためには正会員の資格が基本的に必須となったため、過去に類を見ないサバイバルとなった2019年の日本女子プロゴルフ協会(LPGA)プロテスト。

アマチュア資格を保持する選手はプロテストに受からなければ、そのままアマ

ことは住民にも伝えており、そうならば鉄柱は必要なくなる。

さまざまな事情はあれ、その行動が被災者たちを救うという善意から出たもの



当初はイベント名に「プロアマ」とつけるつもりだったが、念のためLPGAに確認したところ、単年プロを留保なく「プロ」と呼ばないよう、やんわりクギを刺されたそう

の試合に出続けることがで

きるが、今までTP単年登録選手としてツアーに出ていた選手はプロテストに合格してLPGAの正会員にならない限り、LPGAツアーはおろかステップ・アップ・ツアー出場への道も閉ざされることになる。戦いの場を失った彼女たちはいったいどうすればいいのか? そんな状況を憂慮し彼女たちを支援するイベントがクラウドファンディングサイト「REAFOR」で参加を呼びかけている。

「第1回TKゴルフ杯」

「第1回TKゴルフ杯」は1月22日までだが、オール・オア・ナッシングと呼ばれる方式を採っており、それまでに目標金額に達しなければプロ

ークラブにて開催を予定。総勢105人(元単年プロ15人および一般アマチュア90人の30組)で行い、アマは3人で1組となり、18ホールのうち9ホールを元単年プロと同伴ラウンドできる。参加予定選手は、丹萌乃、瀬戸瑞希、幡野夏生、澤田知佳、篠崎愛、中野恵里花、瀬賀豆花、飯田真梨、今綾奈、工藤優海、山下美樹、平井亜美、本田奈央、リカ・パークら総勢15人。

このイベント、企業広告なども募集しており、最終的に支援総額465万円を目標としているが、12月20日現在の支援額は110万円弱だ。募集は1月22日までだが、オール・オア・ナッシングと呼ばれる方式を採っており、それまでに目標金額に達しなければプロ

であることは、間違いない。(日本ゴルフジャーナリスト協会会長代行・小川朗)

「参加予定の瀬戸選手はプロテストに落ちた後『5年間単年登録で頑張ってきたのは、なんだっただらう』と、苦しい表情を浮かべていました。そうした境遇にある選手が少しでも活動資金を得られる場をつくらうと考えました。もともと採算度外視のイベントですが、もし目標金額以上にお金が集まったら、出場選手たちにシェアするつもりです。本当は元単年プロが出場できるトーナメントをめぐりたいのですが、そうなるのかかるお金がケタ違いになってくるので」

こうした動きが発展し、戦う場を失った女子選手たちが研鑽する場が広がることを願ってやまない。

(本誌・金子信隆)